

お盆の前後に行われることが多い「<sup>せじきえ</sup>施食会」という法要は、東京など一部の地域・寺院では、五月や六月に行われます。

多くのお寺では、「施食会」の案内をお檀家さんに送り、ご供養の申し込みが返ってくると、内容に応じて卒塔婆<sup>そとうば</sup>を書き用意をします。さらにお寺のお掃除や法要に関する用意など、施食会をお勤め<sup>つと</sup>するために、数ヶ月前から準備をします。

本日は、あるお寺のある年の施食会でのお話です。

そのお寺では、毎年五月の第二日曜日に施食会を行っていましたが、お寺の工事の時期と重なってしまい、施食会法要にお檀家さんが多く集まることができなくなりました。

しかし、毎年行っていた法要を行わないというのは、気持ちが落ち着かないものです。せめて住職さんだけでもお経を唱え供養をしようと、準備をしていました。

そして施食会の当日となりました。想像はしていましたが、朝からお参りに来る方が多いのです。本堂に上がってご本尊さまにお参りをする方や、お墓のお掃除をしてお花を供えてお線香で供養し、手を合わせてじっと静かに時を過ごしている方など…。

お参りに来ていた中の一人の方が言いました。

「お寺が工事中だから大人数が集まる法要ができないのは仕方がないよ。でも、自分自身が毎年お参りしているものを、今年だけお参りをしないっていうのは、どうにも気持ちが落ち着かなくて…。それで今朝になって来ようと思ったのです」と。

毎年行ってきた「施食会」は、僧侶だけでなく、お檀家さんも共に祈り、共に供養をしてきたのです。それぞれの方が様々な気持ちを抱え、想いを込めて施食会の供養をつとめていたのです。

皆さまも、<sup>せじきえ</sup>「施食会」に参列されることがあると思います。

施食会法要は、自分のご先祖様に限らず、この世の中のありとあらゆる仏さまに対して、分け隔てなく供養の心を差し向ける法要です。

施食会は、自分だけでなく多くの方と共に行うことの大切さや、分け隔てない心を気付かせてくれる法要でもあるのではないかと思います。

— 終 —